

## 球技(ゴール型) バスケットボール

令和3年 2月5日(金) 6校時 体育館 2年2組 男子12名 女子9名  
令和2年 6月19日(金) 6校時 3年2組教室 3年2組28名(男子12名 女子16名)

## 1 単元について

## (1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)第2章第2節「体育分野」の内容Eの球技に関する単元である。

本単元では、次のような資質・能力を育成することと示されている。

球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次のような知識及び技能を身に付けること。

次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。

ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。

(2) 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 次のような学びに向かう力、人間性等を身に付けること。

球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助することなどや、健康・安全に気を配ること。

バスケットボールは、ゴール型の運動で、ボール操作と空間に走り込む動きによってゴール前の攻防を展開し、勝敗を競う楽しさを味わうことをねらいとしている。また、ドリブルやパスなどのボールの操作によって、相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間に相手チームより多くの得点を競い合うという運動である。これらを指導する際には、ゴール前の空間をめぐる攻防についての学習課題を追求しやすいように、プレーヤーの人数やコートの広さなど、工夫したゲームを取り入れ、ボール操作とボールを持たないときの動きに着目した学習を行うことで、状況に応じた思考や判断を身に付けることができる単元でもある。

また、集団対集団が攻守入り乱れてゲームを展開するため、フェアプレイを大切にすること、自己の責任を果たすこと、話し合いに貢献することなどに意欲をもたせることができ、健康や安全を確保するとともに自己の課題に応じた運動の取り組み方を考えさせることができる単元でもある。

## (2) 生徒観

本学級の生徒は、授業に集中して取り組み、体力や技能の向上を図ろうとすることができる。例えば、技能の向上のためのポイントを聞いて理解につなげるとする習慣が定着できている。運動が苦手や運動不足、体力・運動能力が全般的に低位な生徒も多く、新体力テストの結果もかなり低い。バスケットボールでは、「やってみたい」「上達したい」と感じている項目は、シュートが多かった。得点を競うスポーツという特性を考えると、バスケットボールを生徒が楽しみや達成感を感じるやすくするために、本学級では、シュートに重点を置いて指導していきたい。

## (3) 指導観

指導にあたっては3年間の系統性をもたせ、技能の発達に応じてゲームの楽しみ方が発展していくように学習を進めていく。本学級は2年生でだが、昨年度に引き続き、シュートやドリブルをはじめとする基本的な技能の向上とバスケットボールへの意欲の向上を図っていききたい。それを達成するために、シュートを中心とした基本的な技能の習得をめざし、ゴールが入る喜びを味わわせることで、バスケットボールの魅力を感じさせたい。

#### (4) 単元の目標

- ①自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にする事、自己の責任を果たそうとすること、技能習得などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。(関心・意欲・態度)
- ②球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。(思考・判断)
- ③安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。(技能)
- ④技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解する。(知識・理解)

#### 2 単元の評価規準

観点	ア. 関心・意欲・態度	イ. 思考・判断	ウ. 運動の技能	エ. 知識・理解
評価規準	①球技の特性に触れながら、積極的に練習に取り組むことができる。 ②チームでの話し合いに参加したり、お互いに協力して練習に取り組もうとしている。	①活動を通して、自己やグループの課題を明らかにしている。 ②シュートに繋がる動きやポイントを考え、仲間に伝えようとしている。	①シュートやパス、ドリブルなどの技能を正確にできる。 ②空いているスペースを使い、パスを出したりもらったりすることができる。	①バスケットボールの特性や成り立ちについて、言ったり、書き出したりしている。 ②バスケットボールの技術の名称を理解している。

#### 3 指導計画 (10 時間)

次	学習活動	評価規準 【観点】(評価方法)
一	・バスケットボールの特性と知識を理解し、シュート練習ができる。  【単元を貫く課題】基本的技能を習得していこう。	【ア①】【エ①】(ワークシート, 行動観察)
二	・基本的な技能(シュート, ドリブル)を習得する。(グループ練習) ・リング下シュート評価	【ア①】【エ②】(行動観察, ワークシート)
三	・基本的な技能(シュート, ドリブル)を習得する。(グループ練習) ・リング下シュート評価	【ア①】【ウ①】(行動観察, ワークシート)
四	・基本的な技能(シュート, ドリブルシュート)を習得する。(グループ練習) ・リング下シュート評価	【ア①】【イ②】【ウ①】(行動観察, ワークシート)
五	・基本的な技能(シュート, ドリブルシュート, セットシュート)を習得する。(グループ練習) ・リング下シュート評価	【ア①】【イ②】【ウ①】(行動観察, ワークシート)
六	・基本的な技能(シュート, ドリブルシュート, セットシュート)を習得する。(グループ練習) ・リング下シュート評価	【ア①】【イ②】【ウ①】(行動観察, ワークシート)
七	・基本的な技能(シュート, ドリブルシュート, パスからのレイアップシュート)を習得する。(グループ練習) (本時)	【ア①】【イ②】【ウ①】(行動観察, ワークシート)
八	・基本的な技能(シュート, ドリブルシュート, パスからのレイアップシュート)を習得する。(グループ練習) ・個人技能から集団技能へ繋げる。(1対1, 2対1, 2対2など)	【ア①】【イ②】【ウ①】(行動観察, ワークシート)
九	・基本的な技能(シュート, ドリブルシュート, セットシュート)を習得する。(グループ練習) ・個人技能から集団技能へ繋げる。(1対1, 2対1, 2対2など)	【ア①】【イ②】【ウ①】(行動観察, ワークシート)
十	・基本的な技能(シュート, ドリブルシュート, セットシュート)を習得する。(グループ練習) ・個人技能から集団技能へ繋げる。(1対1, 2対1, 2対2など)	【ア①】【イ②】【ウ①】(行動観察, ワークシート)

#### 4 本時の展開（7／10時間）

##### (1) 本時の目標

相手からパスをレイアップシュートにつなげることができる。（技能）

##### (2) 観点別評価規準

十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	努力を要する生徒への手だて (C)
<ul style="list-style-type: none"><li>・ボールキャッチと足を合わせ、反則なくレイアップシュートにつなげることができる。</li><li>・ボールをコントロールしてリングまで運ぶことができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ボールキャッチと足を合わせ、反則なくレイアップシュートにつなげることができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ボールキャッチと足を合わせる ことが難しい。</li><li>・トラベリングしてしまう。</li></ul> <p><b>【支援の手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・仲間同士で伝え合わせる。</li><li>・視覚教材を用いて確認する。</li></ul>

(3) 準備物 バasketボール, 筆記用具, 振り返り用紙, タブレット, ワークシート

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 予想される生徒の反応 (・)	評価規準 (評価方法) 配慮を要する生徒への支援 (◆)
1 あいさつ・健康観察 2 本時の学習課題を確認	○体調、爪等の確認を丁寧に行う。	行動観察
めあて：相手からパスをレイアップシュートにつなげることができる。		
3 準備運動・補強運動 ・体操、ストレッチ ・補強運動 ・ランニング、ダッシュ	○体力の向上を意識して行っているか。 ○自己の体力の課題を考えて行っているか。	◆必要に応じて指導を行う。
4 前時の振り返り ・ドリブルシュート	○シュートに入る最後のドリブルと足のタイミングが合っているか。	◆必要に応じて指導を行う。
5 ペアでのレイアップシュート ・ペアの人が保持しているボールを走り込んで取り、レイアップシュートする。  ・一人一人の活動を確認する。  ・ペアの人が空中に上げたボールを走り込んで取り、レイアップシュートする。  ・ペアの人がパスしたボールを走り込んで取り、レイアップシュートする。	○タブレットで録画する。 ・ドリブルシュートとつなげられる生徒とつなげられない生徒ができる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: fit-content; margin: 10px auto;">瀬戸田シンキングタイム</div> ○一人一人のシュートの課題等を見つけ、改善点を確認する。 ○気づいたことを振り返りシートにまとめる。  ○タブレットで録画する。 ・ドリブルシュートと同じようにキャッチと足を合わせてレイアップシュートにつなげることができる。  ・ドリブルシュートと同じようにキャッチと足を合わせてレイアップシュートにつなげることができる。	◆グループで協力して録画させる。  ◆必要に応じて指導を行う。  ◆必要に応じて指導を行う。
7 本時のまとめ ・本時の振り返りをする。 本時の活動を通して、気付いたことなどを振り返りシートに記入する。	○本時の活動のまとめを行い、技能の習得段階を評価する。 ○全体の感想と技術の補足を行う。 ○けがや体調について確認する。	・ワークシート

※□囲みで示した活動が、本時におけるシンキングタイムである。